



スローフードから見えること

「テッラ・マードレ・デー」に寄せる、
スローフードすぎなみ TOKYO からのメッセージ

December 6 / 2009

私たちスローフードすぎなみ TOKYO は、人口 1,000 万人を超える日本の首都・東京で活動する 40 人あまりのコンビビウムです。私たちは、杉並区内の学校で行う「味覚教育」を中心に、各地のコンビビウムや私たちの活動に関心がある人たちとともに、「料理講座」やイベントへの出展などを行っています。メンバーのほとんどが消費者（共生産者）です。生産者は 1 人しかいません。

しかし、私たちは、スローフードによって日本だけではなく世界の生産者やスローフードのメンバーとつながっています。

2009 年 12 月 6 日、私たちは「テッラ・マードレ・デー」に参加するため、メンバーや友人たちがスローフードな食材や料理を持ち寄り、＜生物多様性＞を味わい、分かち合い、メッセージを發します。

スローフードは、私たちの言葉です。

スローフードは、食べ物を作る楽しさ、味わう楽しさ、分かち合う楽しさによって、私たちの生き方や世界を考える運動です。

そして、スローフードからは、私たちが望む社会の姿が見えます。

現在、日本は食糧の多くを輸入に頼っています。つまり、私たちは TOYOTA や SONY を売って、そのお金で、私たちの伝統的な食材である豆腐の原料となる大豆、牛や鶏の餌、小麦、野菜などを買っているのです。日本では、低い食糧自給率（41%）を上げるために、農業の大規模化・効率化・科学技術による収量の向上などが進められています。しかし、スローフードは小規模で貴重な生産者を守る運動です。だから、私たちはこの政策に必ずしも賛成ではありません。

日本は山が多い国です。国土の約 70% が山林で、人が住む場所に近い山林は特に「里山（さとやま）」と呼ばれています。かつて、里山は農業や人々の暮らしと深く結びついていました。里山の落ち葉が肥料として使われ、果実が食料となり、大きく育った樹木は農家を建てるために使われました。しかし、いま、この山林が荒廃し、日本の林業自給率はわずか 14% になりました。木造家屋が多い日本で、私たちは自分たちが住む家の材料も輸入に頼っているのです。

里山が示すように、私たちが住む日本は「江戸時代」と呼ばれる 150 年前まで、欧米の文化や制度が導入されるまで、完全循環型の社会でした。また、日本では台風や地震などの自然災害が発生しやすく、そのため自然との共生・共存が日本人のアイデンティティを作ったのです。そこから、物を使い捨てにせずリサイクル・リユースする「もったいない」という言葉が生まれました。

日本には、かつて人々の生き方を示す「清く、正しく、美しく」という言葉もありました。その言葉は、いまスローフードが掲げるスローガン「おいしい、きれい、ただし」に、なんと似ていることでしょうか!? さらに、私たちは欧米の言葉には翻訳しづらい「塩梅（あんばい）」という言葉も持っています。これは、日本の伝統的な保存食である梅干しから生まれた言葉で、塩味と酸味のバランスを表し、物事の程度や調和を表すときに使われます。

これらの言葉が、失われつつある日本の伝統と文化を表すように、私たちの料理の皿や食卓の外には、欧米にはないアジアの食文化が見えます。地球的な運動であるスローフードは、このアジアの食文化を無視できません。

2006 年 9 月、私たちは、香港、シンガポール、ネパールそしてハワイのスローフード・メンバーが集まる「スローフード・東アジアコンファレンス」を東京で開きました。

国際運動であるスローフードは、それぞれの国の一つ一つのコンビビウムの活動に支えられています。ですから、私たちは日本だけではなく、世界中のコンビビウムと結びつきたいと考えます。しかし、残念なことに、日本ではスローフードに会費を納める会員が減り、いまや 1, 500 人を下回ってしまいました。そのメンバーを増やすため、私たちのコンビビウム、スローフードすぎなみ TOKYO は、日本のスローフードの発信地のひとつになりたいと思っています。

……なぜなら、スローフードとは、世界中の見知らぬ人たちが知り合い語り合う、コミュニケーションの方法なのですから。

コミュニケーションこそ、私たちの出発点です。

みなさんも、日本の食文化と私たちのコンビビウムの活動にアクセスしませんか？

Be Slow !!

スローフードすぎなみ TOKYO

<http://slowfood.smile.tc/>

XLK03572@nifty.ne.jp